

経済・金融 フラッシュ

商業販売統計 11年2月

～持ち直し続くも、3月は震災の影響から大幅悪化の公算

経済調査部門 研究員 桑島 滋

TEL:03-3512-1838 E-mail: kuwahata@nli-research.co.jp

1. 持ち直し続くも、3月は震災の影響から大幅悪化の公算

3月29日に経済産業省から公表された11年2月の商業販売統計速報によると、小売業販売額は前年比0.1%の10兆4070億円となり、前月から横ばいとなった。季節調整済前月比では0.8%と2ヵ月続けて増加した。

物価変動の影響を除いた実質値（当研究所試算値）では前年比▲0.8%の減少となった。生鮮食品の大幅上昇などを主因に物価（電力・都市ガス・水道を除く財）が前年比プラスで推移していることから、5ヵ月続けて名目の伸びが実質を上回った。

業種別では、引き続き駆け込み需要の反動による影響から自動車小売業、機械器具小売業が販売額全体を大きく押し下げている。自動車小売業は、前年比▲16.5%と10月以降二桁マイナスが続いている。機械器具小売業は前年比▲4.7%と、前月（同▲9.1%）に続いて大幅減少となった。ただし、減少幅はともに前月から縮小した。寄与度別では、自動車小売業が▲2.3%、機械器具小売業が▲0.3%小売業販売額を押し下げたものの、燃料小売業が0.9%、食料品小売業が1.1%押し上げたことにより、駆け込み需要の反動による減少分はほぼ相殺されている。

小売業及びコンビニエンスストア販売額(増減率)

	小売業								コンビニエンスストア販売額	
	前月比	前年比	大型小売店				スーパー		前年比(既存店)	前年比(既存店)
			前年比	前年比(既存店)	百貨店	前年比(既存店)				
09年12月	▲0.3	▲0.2	▲4.2	▲4.6	▲7.0	▲5.1	▲2.3	▲4.3	▲2.8	▲5.7
10年1月	2.2	2.3	▲5.1	▲5.7	▲7.4	▲5.7	▲3.7	▲5.7	▲2.5	▲5.5
2月	1.3	4.2	▲3.4	▲4.0	▲7.4	▲5.3	▲1.1	▲3.2	▲1.8	▲4.9
3月	0.0	4.7	▲4.1	▲4.9	▲5.6	▲3.6	▲3.2	▲5.6	▲2.4	▲5.1
4月	0.4	4.9	▲3.0	▲3.7	▲6.0	▲3.7	▲1.5	▲3.6	▲1.2	▲3.9
5月	▲1.7	2.9	▲3.2	▲3.9	▲4.1	▲2.1	▲2.8	▲4.9	▲0.8	▲3.7
6月	0.5	3.3	▲2.4	▲3.1	▲7.4	▲5.7	0.4	▲1.6	1.2	▲1.4
7月	0.4	3.8	▲1.1	▲1.3	▲3.2	▲1.4	0.4	▲1.2	2.9	0.3
8月	1.4	4.3	▲1.1	▲1.8	▲5.0	▲3.0	0.6	▲1.3	3.2	0.7
9月	▲2.8	1.4	▲1.0	▲1.7	▲6.4	▲5.0	1.8	0.1	15.1	12.2
10月	▲1.4	▲0.2	1.2	0.4	▲0.5	0.6	2.3	0.3	▲3.3	▲6.0
11月	2.0	1.5	0.5	0.1	▲1.5	▲0.4	1.8	0.5	3.4	0.7
12月	▲4.2	▲2.1	▲1.6	▲1.7	▲2.6	▲1.5	▲0.7	▲1.8	5.4	2.8
11年1月	4.0	0.1	▲0.6	▲0.7	▲3.0	▲1.1	0.9	▲0.4	7.1	4.5
2月	0.8	0.1	1.0	0.5	▲1.1	0.6	2.1	0.4	8.5	5.9

(資料)経済産業省「商業販売統計」

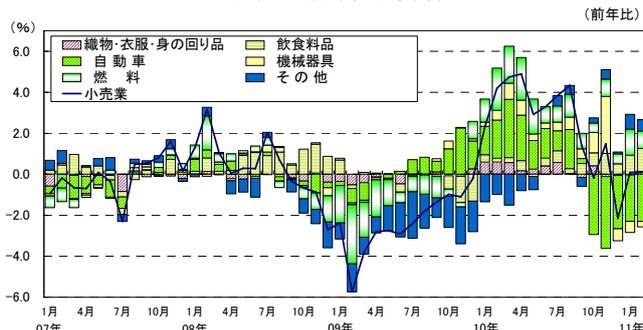
小売販売額の推移



(資料)経済産業省「商業販売統計」

(注)実質値については、消費者物価指数(「財」から「電気・都市ガス・水道」を除いたもの)により実質化

小売業販売額(業種別寄与度)



(資料)経済産業省「商業販売統計」

2. 大型小売店の販売額は3ヵ月ぶりに増加

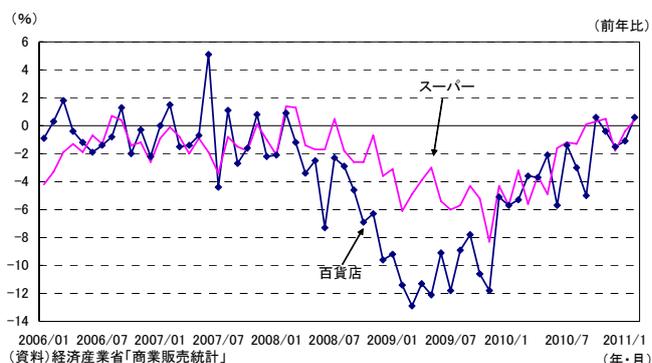
11年2月の大型小売店の販売額（百貨店とスーパーの合計）は、百貨店（前年比0.6%）、スーパー（同0.4%）ともに増加に転じたことから、既存店ベースで前年比0.5%と3ヵ月ぶりに増加した。

百貨店販売額（既存店）を商品別にみると、紳士服・洋品が前年比▲0.4%（1月：同0.0%）となったものの、婦人・子供服・洋品が前年比1.4%（1月：同▲2.1%）と増加に転じたことなどから、販売額の4割強を占める衣料品全体で4ヵ月ぶりに増加（1月：前年比▲1.6%⇒2月：同1.0%）した。一方、その他の商品では家庭用品が前年比4.1%と前月（同4.0%）に続いて大幅増加となった。

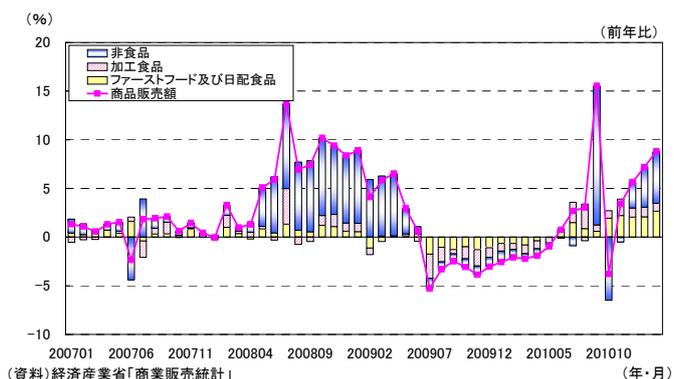
コンビニエンスストア販売額（商品販売額及びサービス売上高）は6268億円、前年比8.5%（全店ベース）と前月（同7.1%）から更に増加幅が拡大した。商品別には、非食品（前年比15.7%、1月：同12.2%）、ファーストフード及び日配食品（前年比7.6%、1月：同6.0%）が前月から増加幅が拡大した。一方、加工食品（前年比2.6%、1月：同3.1%）は前月から若干増加幅が縮小した。

2月の小売業は、引き続き政策終了直前に見られた駆け込み需要の反動が販売額を押し下げる展開となったものの、雇用・所得環境の改善などを背景に消費者マインドが改善傾向にあることなどから持ち直しの動きとなった。ただし、3月については11日に発生した観測史上最大規模の東北地方太平洋沖地震の影響による消費者マインドの急速な冷え込みに加え、震災に続く原発事故により電力供給が制限されたことを受けて、経済活動そのものが停滞したことなどから大幅減少となることが懸念される。

百貨店及びスーパー販売額推移(既存店ベース)



コンビニエンスストア商品販売額(全店ベース 寄与度)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。